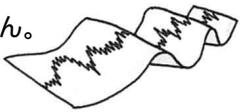
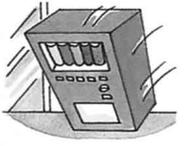
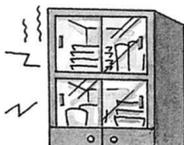


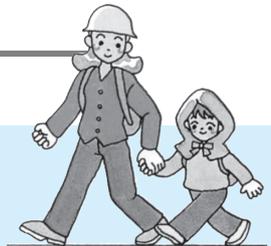
# 地震の揺れと被害想定 (気象庁震度階級関連解説表から作成)

震度 0	人は揺れを感じません。 	震度 5弱	家具が移動したり、食器や本が落ちたり、窓ガラスが割れることもあります。 
震度 1	屋内にいる人の一部がわずかな揺れを感じます。 	震度 5強	タンスなどの重い家具や外では自動販売機が倒れることもあります。自動車の運転は困難です。 
震度 2	屋内にいる人の多くが揺れを感じます。つり下がっている電灯などが、わずかに揺れます。 	震度 6弱	立っていることが難しく、壁のタイルや窓ガラスが壊れ、ドアが開かなくなります。 
震度 3	屋内にいるほとんどの人が揺れを感じ、棚の食器が音を立てることがあります。 	震度 6強	立っていられずにはわなわなと動くことができません。重い家具のほとんどが倒れ、戸が外れて飛びます。 
震度 4	眠っている人のほとんどが目覚めます。部屋の不安定な置物が倒れ、歩行中の人も揺れを感じます。 	震度 7	自分の意思で行動できません。大きな地割れや地すべり、山崩れが発生します。 

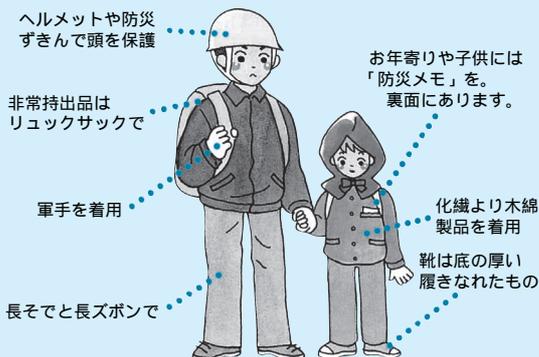
## 避難するときは

### 避難の心得 10カ条

- 避難する前に、もう一度火元を確かめ、ブレーカーも切りましょう。
- 防災メモ (裏面にあります) を身に付けましょう。
- ヘルメットや防災ずきんで頭を保護しましょう。
- 荷物は最小限にしましょう。
- 外出中の家族には連絡メモを残しましょう。
- 避難は徒歩で。車やオートバイは厳禁です。
- お年寄りや子供の手はしっかり握りましょう。
- 近所の人たちと集団で、まず決められた集合場所に集まりましょう。
- 避難所へ移動するとき、狭い道、塀ぎわ、川べりなどは避けましょう。
- 近くの避難所へ避難しましょう。



### 避難するときの服装



### 避難するときのルール

避難するときは、混乱防止のため、決められたルールと秩序を守り、お互いに協力し合うことが大切です。特に、乳幼児、高齢者、病人、身体の不自由な人を安全に避難させるために、日頃から十分な対策を立てておきましょう。また、災害時に車で避難すると避難所やその周辺が車で混雑し、かえって避難が遅れます。救護・救援活動の妨げにもなりますから、自分の都合だけを考えた車での避難は絶対にやめましょう。